

平成28年度 第2回大阪府立泉北高等学校学校協議会

1 日時 平成28年10月27日(木) 13:15~15:25

2 会場 本校会議室

3 出席者 <委員>

泉川 敬介氏(若松台中学校校長)、中村 俊一氏(立志館ゼミナール館長)、
深井 和美氏(P T A会長)、池内 博一氏(大阪電通大学)

4. 挨拶 校長

・本日は2部構成で、前半はS G Hの中間発表をご覧いただき、後半は主に授業アンケートの結果等についてのご報告、S G Hの取り組み、S S Hの来年度以降の申請に向けてS S H主担の榎阪を中心に新たな取り組み・申請の原案の作成に取り組んでいる。当校においてS S H・S G Hは目玉の学校になっているので、ご意見を頂きたい。

学校経営計画の目標については中間状況ということで、それぞれの分掌からの状況を確認して頂きたい。

5. S G H中間発表について

(委員)

たくさんの課題を4~6人で取り組んでいる。子供たちがよく話を聞き、発表者もしっかり原稿を作っている。初めてということで緊張感があり、15分という時間を持たせるのが大変そうだった。質問も遠慮しがちでなかなか出にくい状況で、なかなか難しい。きっとより良い発表になっていくのではないかな。それぞれのテーマも、社会とかかかわっている「貧困問題」「乳児の死亡率」「災害」「きれいな街づくり」等多岐にわたり、社会を勉強して発表している様子。しっかり学び、表現をしている。今、企業が求めているプレゼンテーション能力・コミュニケーション能力をしっかりつけて頂いていると感じた。

(委員)

親として、子供たちが社会に目を向けて興味・関心を持っている事がうれしい。真剣に1年生も聞いていた。5分で発表が終わっている班もあり、勿体ない。時間をしっかり決め、周りも聞く体制を作るというのが改善点ではないかな

(委員)

途中でダレる生徒がいなく、みんな熱心に聴くことができていた。情報革命の時代で、インターネットで世界中の情報をリアルタイムに集めることができる。

「何が正しい情報か」と判断することが大事。「情報の見方」という点を指導して頂きたい。

「リーダー」が育つ環境になっており、それが良かった。プレゼンテーションの良い所に人気がある。内容よりもパフォーマンス力がある班に人気が出てしまうところはあったと思う。非常に可能性を感じ、良い取り組みだと思う。

(校長)

桃山学院大学の経済関係の先生に月1回来てもらい、テーマ設定のアドバイスをして頂いている。あくまでもベクトルは生徒に決めさせ、軌道修正やアドバイスを行って頂いている。SGHの取り組みにはうまくサポートして頂いている。学校の先生ではなく第三者からの助言は「聞いてみよう」となりやすい。

6. 協議

(委員)

- ・3年生全員が理科教室ということでダンゴ虫の習性・蚤の習性・光の屈折等、中学校で出来ない体験をさせて頂いた。
- ・指導要領の改訂は、中学は平成33年、高校は平成34年から完全実施。文部科学省の審議官より「何ができるのか？何が身についたのか？が使って結果としてどのような事を学んで、生活で生きていく力になっていくのか
- ・観点別評価「関心・意欲・態度」「思考・判断・表現」「技能」「知識・理解」の4観点から「知識及び技能」「思考力・判断力・表現力等」「主体的に学習に取り組む態度」の3観点に移行。
- ・達成度テストが今後創設される。これが大学とどのように繋がっていくのかということを知りたい。

(委員)

- ・資料4 授業アンケートでは概ね高評価を得ている。
- ・資料3 定量的な目標での授業アンケートの結果についての具体性がなく記載がわかりにくい。
- ・「開かれた学校づくりについて」「TOEFLでスコアを何点取ったか」についての結果の記載がない。
- ・研究開発の概要 「科学的人材」という記載の定義が曖昧ではないか？より定義として具体的に記載したほうが良いのではないか？
→再度検討し、回答したい。(校長)

1) 事務局からの報告

① 学校教育自己診断アンケートについて (教頭より)

以前、協議会でご指摘頂いたので、学校教育自己診断のアンケート内容について精査している。

(校長) ギャップ分析を行えるよう、保護者・生徒・教職員に同じように聞く。なるべく簡素化させる。

② 高等学校用教科書の発行者による不適切な行為に関する都道府県教育委員会等による調査結果について (教頭より)

教科書関係では本校は不適切な対応を行っている教員はいなかった。今後も注意を継続。

③ ストレスチェック (教頭より)

ストレスチェック（どれだけストレスがかかっているか）を始める。関係の病院へアンケートを送付している。

④ 学習指導要領改訂の視点（教頭より）

学習指導要領の改訂（文部科学省より）一方的な講義型ではなく、自分たちで考えさせるアクティブラーニングについて考えていかなければならない。課題研究のような自分でテーマを見つけ、研究し、プレゼンテーションで発表していく。という授業の形について考えていかなければならない。

シラバスの様式が大きく変わる。次年度からは観点別に評価していく内容を含めた内容が変わっていく。

（情報提供）大学入試制度が大きく変わる。2020年度から（現中学2年生）、2024年度から小学4年生からコンピュータ上で回答していく形式に変わるのではないかと授業の進め方を考えていかなければならない。

⑤ 平成28年度学校経営計画及び学校評価に対する進捗状況について（教頭より）

各分掌からの報告で、進捗状況をまとめました。

⑥ 第1回授業アンケート結果について（教頭より）

7月に行われた授業アンケートの教科別集計。

同学年で比較すると、昨年度より3年生は若干数字が落ちている。

同期で比較すると、1年→2年、2→3年は若干上がっている。

質問項目5番「有効なプリントなどを活用している」から「授業がわかりやすくなるような教材を活用している」に変更し、結果は上がっている。各教員がICT機器を活用できているのではないかと。

1番「予習・復習」については70%を切っており、本校の課題

（校長）

ストレスチェックに付随し、学校医の方がご高齢。次の世代に移らないといけませんが、なかなか手がない。学校医という制度がなくなるのではないかと？ストレスチェックは学校医にお願いしている。

授業アンケートの結果について、観点が変わってきている中で、アンケート項目も変えていかなければならない。アクティブラーニングや観点別評価についての項目等を取り入れ、先生の授業も変えていかないといけない。

（委員）

産業医にストレスチェックをお願いしている。心の持ち方によってストレスの受け方が変わるので、簡単ではない。専門家でもストレスチェックは難しいのではないかと。

（校長）

産業医で若い世代の方がいない

（委員）

授業アンケートについては80%近く良い結果が出ている。平均点を下げている先生をどのように

上げていくかが課題。良い結果が出ている先生は、自然とアクティブラーニングを行えており、自分なりの法則が確立されている。上手な先生方が「どのような法則をもって生徒に対応しているか」を共有化すると良い。

全教員が協力して取り組むことが必要。

(校長)

授業の共有については計画している。

(委員)

初任の先生が増えてきている為、授業公開を行っている。互いに見せ合うことで自分の授業の参考にしていく。ベテランの先生だからといって結果が上位とは限らない。

⑦ SGHの取り組みについて (教頭)

SGHの事業報告 御覧おきください。

⑧ SSHの取り組みについて (SSH担当より)

1 1月24日に中間発表。3年6月に大阪府立大学において研究発表

1期・2期と続けて行っている事を踏襲しながら3期の申請を進めていこうと考えている。課題研究を中心に考えて、現在でも大学訪問など高大連携を行っているがより充実させたい。地域の理科教育については、高校生が関わる機会を増やしていきたい。世界に出ていくという人材を育てるためには、英語はもちろん、グローバルマインドの熟成も目標としたい。どのような仕組みを作っていくべきか考えている。ご意見を頂きたい。

(校長)

3期だからできることを計画に据えないといけない。

(委員)

科学的人材という言葉がピンポイントではない。

存在するものの本質は何か？法則化が出来るか？知識の法則化が現代社会に応用できるか？の3つ科学的な力では？

新たに注目を浴びようとする、同じことをやっていると難しい。

「プログラミング」「AI」等、次の時代を見ているような内容を入れてみては？

(委員)

授業でプログラミングをしたら面白いのではないかな？

(事務局より)

次回 (第3回) は達成状況・次年度に向けての取り組みについて1/27 (金) 15:45 から行う。

(校長より)

SSHのいい報告もできるよう取り組みたい。ご指摘いただいた内容については持ち帰らせていただき、改善するべきところは改善していきたい。